

優良活動事例

鳥取県日南町における計画的な森林施業に向けたフォレスター活動

公益財団法人 鳥取県造林公社 西部事務所

副所長 前野 洋一 氏

1. 発表の趣旨

鳥取県西部地域の日南町において、森林経営計画に基づいた計画的な森林施業の推進のために「施業の見える化」、森林施業の問題点の整理、町・森林組合との課題に対する共通認識の形成と課題解決に向けた体制作りや技術的な支援等、准フォレスターとして活動し一定の成果が見られた内容について報告したい。

2. 取組内容

(1) 現状

日南町は、平成 19 年度稼働の L V L 工場の需要に対応するため間伐材の搬出利用が促進され、県内の素材生産の 40%を占める有数の林業地となっている。

豊富な森林資源に対しスギ・ヒノキ林の間伐実施率はまだ 32%で、今後も利用間伐を推進できるようにみえる。しかし、地元林業事業者から「間伐をしたくても、出来るところが少なくなっている。」との声が聞かれるようになってきた。何故、間伐するところがないのか？といったどういう施業がなされているのか？実態がわからないため、森林 GIS を用いて施業履歴を図示させる「施業の見える化」を行った。

施業の見える化を行った結果、幹線路網の無い地域では施業が進んでおらず、幹線がある地域でも幹線沿いに虫食いの間伐施業がなされていることが一目瞭然となった。

この原因は、地権者の了解が得やすく地形条件の良いところから虫食いの間伐を進めたためである。今後、既設の幹線路沿いで地権者の協力が得やすい場所は残りわずかしかなく、あと数年で搬出間伐が行き詰まるという危機的な状態になっている事が明らかになった。

しかし、このことに多くの関係者が気付いていない状態であった。

(2) 課題

今後は虫食いの間伐をやめて、集約的な施業を進める必要がある。また、森林資源はあるものの幹線路網がないため施業の空白地帯となっている地域に新たな幹線を計画・整備し、計画的に面的な森林施業を進めなければならない。

そのためにはまず、関係者が問題意識を共有し、町・森林組合・素材生産業

者等が一致団結した体制を作り、集約化や幹線路網といった課題に取り組む必要がある。

(3) これまでの取組

①森林 GIS による施業の見える化

平成 19 年度以降の施業履歴データを森林 GIS に入力し、それと共に既設路網も図示する「施業の見える化」に取り組んだ。これにより、施業の空白地帯と幹線路網の分布関係が明らかとなった。

②新たな体制でのプランニング（幹線路網対策プロジェクトチーム）

幹線未整備地域の計画的な森林整備のため、町・森林組合・県が協力して幹線整備を進めることとし、准フォレスターが傾斜区分図等を用いて新たな幹線のルート計画を提案した。

3. 成果

①情報の共有化（森林組合、町との意見交換）

「施業が虫食いの」「幹線路網が不足している」など、森林 GIS による「施業の見える化」によって関係者が正しく現状を理解できた。このままでは近い将来、利用間伐が困難となり、地元 LVL 工場への素材供給が不足することに危機感を抱き、この状況を打開しようとする積極的な姿勢に変わった。

②計画的な森林施業の実施体制の整備

森林組合は、計画的な施業を進めるための体制作りとして集約化室を新設し専任職員を配置した。町による森林経営計画の進捗管理も行われるようになった。さらに、幹線路網対策プロジェクトチーム設置や、利用間伐に加えて主伐も取り入れた安定供給体制が始まった。具体的な成果としては、林業専用道 2 路線の事業化、町の皆伐施業の支援施策により皆伐、再造林がスタートした。

4. あとがき

当初の課題は大きかったものの、フォレスター活動として行った「施業の見える化」によって、関係者で危機感を共有することができたことが地域林業の改革の扉を開いた。これによって町と森林組合が協力体制を構築し、特に森林組合は組織改革を行い集落毎の森林整備説明会も開始した。現在素材生産年間 8 万 m³から町の目標である 10 万 m³へ向けて、新たな一歩を踏み出せたと言える。

本報告の取り組みにより林業関係者の県への信頼が増し、フォレスター活動も行いやすくなったと聞く。また全県で施業の見える化が進められ同様なフォレスター活動が広がってきていることは、前担当者としてうれしいことである。